

【佐藤誠司 爆釣指南】

強	風	も
大	波	も
巨	鯛	も

screenplay=words-by-toko.com

【第一回】
ウインドサーファーなら、
やんなきゃウソだけ、
ボードフィッシング

■その朝、鎌倉は材木座海岸に出て、いつものように新品の潮風を肺にぶちこんでいると、おや、由比ヶ浜方面から歩いてくる長身は柳沢プロではないか？

いきなりだ、
「セージさん、きのう、スズキのかいの上げましたよ、79cm」

79cm！、しかしにわかには信じられない、釣り師の場合、釣ったサイズの1～3割増しは当たり前前、ひでえのになると5割増しだからだ。いえいえ、柳沢プロがそうだとやってるんじゃないや、一般論ですよ。

しかし微妙だ。79cm？ 80cm越えしてないぶんリアリティがある。(ほんとに79cmなら、たいていの釣り師は81cmと言うのだ)

「すげーじゃん、ヒットルアーは？」

「昨日はバイブレーションのナチュラルカラーが良かったすね、バンバン追ってきましたよ」

浅野則夫プロにも大物釣り自慢ぶちかまされたことがある。

おれの顔、見るなりノリオ、

「こないだでかい真鯛上げましたよ、5kg、ルアーで」

ルアーで、というところがミソなのだ。

生餌ではなく、ルアーやフライなど疑似餌で釣る方が、サカナを欺かないといけないぶん難しくステイタスがある。アルミブームとカーボンブームくらいの差はあるのだ。

おいらもすかさず切り返す。

「おれもこないだ5kg越え、上げたよ、しかしあれだね、真鯛も5kg越えんとそーと一手ごわいね、ま、食って旨いのは2kgまでだけだよ」

口数が多いのには理由がある。

ノリオに、どんな方法で釣ったのか聞かれるのが怖いのだ。

幸い、ノリオはオトナで、おれは

「オキアミぶち撒いてエビで釣った」と白状してくてすんだ。

ま、とにかく、釣り師同士がイイのは世間話が無用ってことだ。

おいらは、世間話が苦手だ。

「しかしあれですねえ、中国内陸部の被抑圧層の反日デモには困ったものですねえ」

「菅ソーリの経済対策に期待していいんでしょうかねえ」

なんてケツ、そんなこと言えねえ言えねえ言いたくもねえ。

釣り師同士なら、どこぞの湾に青物が入ってきたとか、どこぞの波戸でアオリイカが上がり始めたとかいきなり核心だ。

おいらは、ビッグウェイブが、強風が大好きだ。デカイ魚を釣ることも。

マストハイの波に乗る興奮と快感、5kg超級の真鯛を誘い、食わせ、引き合う興奮と快感、どっちが偉いってわけじゃねえ、どっちも捨てらんねえ。

あんた、ウインドサーファーなんだろう？

(興奮による文体の乱れ、お許し願います)

ウインドサーファーってことは、おいらたちのような、暑い、もとい、熱い釣り師になりうる、つよおーい属性があるってこった。

騙されたと思って始めてみな。

いいことだらけだ。

最高の風待ち手段になる、ウインドを利用するのでよく釣れる、カミさんはよろこぶわ、ガキにヤソンケーされるわでえらい騒ぎだ。

ウインドサーファーなら、やんなきゃウソだけ、ボードフィッシング。

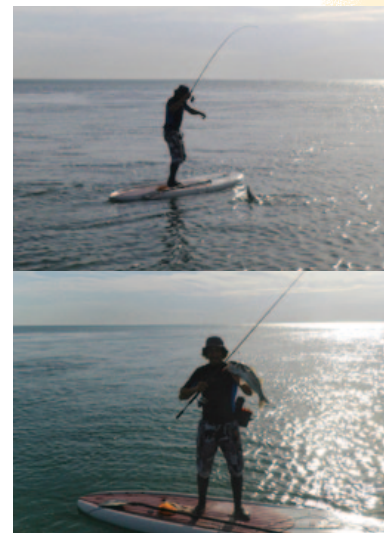
(あんまり)カネもかかんねえ。



佐藤誠司

Seiji Satoh

■昭和39年生まれ、46歳B型。80年代初期よりマウイに渡り、ホキーバアタックを敢行した、日本人ウェイバーのバイオニアのひとり。ビッグウェイバーとして、突っ込みの誠司として名を馳せる。ウインド、サーフィン、SUP、釣り、鮮魚料理、筋金入りのワタメン。現在、三浦海岸に「おもろいシヨップ」を建設中。乞うご期待



写真は、おいらじゃなくイメージ。これはSTAR BOARDのフィッシング用SUP。ウインドとSUP二刀流で解説してゆきます



自宅正面、三浦沖の根で上げた真鯛のレコード(5kg超)。白鵬関の優勝祝儀よりデカイ？

次号からは実釣指南
道具も、技術も、調理も
哲学も、キスも、タコも

